

建築学プログラムの 教育における3つのポリシー

1.ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

- ・地球環境・地域社会の変化に適応した良好な建築の創生あるいは再創生に関わる高度な工学的能力を修得
- ・先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、建築に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、建築・地域をデザインする能力を修得
- ・社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、建築学の新技術を創造する能力を修得
- ・国際社会でも通用する技術展開能力、コミュニケーション能力、キャリア開発能力を修得

2.カリキュラム・ポリシー（学修・教育目標を達成するための教育体系）

【教育課程編成の方針】

ディプロマポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するため、高度な学際的思考力・実践力や境界領域・異分野の専門知識・技術を養成するとともに、研究テーマに関連した学位プログラム間の連携・融合を図るカリキュラム編成・研究指導を実施する。

【教育内容の学修方法】

次に掲げる科目を配置し、これらを事例研究、グループワーク、フィールドワーク、ワークショップなどの方法により主体的な学修を行う。

- 建築学・土木工学・農業土木学を基礎として、ローカルかつグローバルな視野で地域デザインを工学的に捉え実践するための境界・学際領域科目を配置
- 建築学分野における先端知識の修得及び新技術の創造、高度な建築デザイン能力養成のための専門科目を配置
- 実務的問題への対応力及びキャリア開発能力を育成するために、国内外でのインターンシップ・実習・調査などを単位化

研究指導に当たっては、主指導教員1名と副指導教員2名の計3名を配置し、この内、第1副指導教員は学位の専門性を担保するために同じ学位プログラムの教員から、第2副指導教員は、専門分野に対して境界領域や学際領域の観点から学生の研究進捗や専門能力の修得に対して指導を行い、最終的に高度な専門力と実践力を身に付けさせる。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価する。修士論文に係る評価は、大学院学位論文等評価基準（博士前期課程）に基づき評価する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【求める学生像】

- ・ 建築学を学修するために必要な建築構造学、建築計画学、建築環境工学、建築材料学などの基礎学力を有する人
- ・ 地球環境・地域社会の変化と建築との関わりを学び、ローカルからグローバルに至る多様な視点で新たな創造へ挑戦する意欲のある人
- ・ 建築学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人

入学者選抜の基本方針については[こちら](#)